

行われました



2008年 ● 作業云場を担当する市民団体と企業が主体となり、川に親しむイベント「作業がっは祭り」を開催。

(株)ワイエスシステム/JFEエンジニアリング(株)/(株)アイスクア工業(株)/旭ノベックス(株)/アジア創研(株)/ホクドック(株)/安藤隆/荒井復興建設協議会(株)イーストコア(いであ)伊興工業(株)/柳植木建設(株)オーラテック(株)ウヌマ地城総研(株)エシオテック/垣原工業(株)/遠藤興業(株)/奥田建設(株)/(株)オリエントコンサルタンツ/オルガ(株)/オルガ/プラント・サービス(株)コンコード・エニジー・システム(株)開成エンジニアリング/回胴式遊技機商業協同組合東北支部/鹿島建設(株)/(株)カメヤマ川田建設(株)/川田工業(株)/木皿建設(株)/(株)協栄興産/(株)協和エクシオ/協和設計(株)/栗田工業(株)/(株)栗本鐵工(株)建設機研究所(株)建設技術研究所・コア工業(株)/(株)興盛工業所/(株)コロコロ/国際航業(株)/古久根建設(株)/柳勇井ハルテック(株)コンピュータシステム研究所/作並地区未来プロジェクト/佐藤工業(株)(株)サトー建一(佐藤鉄工)(株)三建設備工(株)/サンコーコンサルタント(株)/三洋テック(株)/(株)三洋タマリン(株)/(株)三洋設計/ジオ・サーチ(株)/重吉興業(株)/(株)芝玄/情報労連東北ブロック協議会/城北工業(株)ジョンソンコントロールズ(株)/kingAM(株)/kingエンジニアリング(株)/水道機工業(株)/水機テラス(株)普恵建築設計事務所/西武建設(株)/星和電機(株)/(株)経高組/仙建工業(株)/(公社)全国上下水道コンサルタント協会/港建建設(株)/(株)センコーコンサルタント/仙台環境開発(株)―(一社)仙台建設業協会/(株)水台/仙台カネサキ(株)/(株)大和/仙台南地区広瀬川環境美化推進協議会/(株)総合技術コンサルタント/(株)大気社/大日本コンサルタント(株)大和エンジニアリング/大和電設工業(株)/大同機工(株)/(株)ダイイ技術サービス/瀧上工業(株)/(株)協栄観光旅館/玉野総合コンサルタント(株)/(株)地圏総合コンサルタント/千田建設(株)/(株)中央コーポレーション/中央コンサルタンツ(株)/(株)長大/月島機械(株)/月島環境メンテナンス(株)/(株)清成/東北・テック・マインド(株)/(株)東建工営/東京コンサルタンツ(株)/東光電気工事(株)/(株)東亜建設(株)/ドードーコン/東統工業(株)東北学院大学/東北三建設サービス(株)/東北緑化環境保全(株)/東北建設機商業協同組合/東北東洋建設/東洋興業(株)/飛鳥建設(株)/内宮エンジニアリング(株)/(株)カマクラ/中野建設コンサルタント(株)/(株)フューチャー・インフラ/名取川水系水質汚濁対策連絡協議会/名取/八木東日本コンクリートの会/西松建設(株)/ニカウスキー(株)/日建工業(株)/日本工営(株)/日本ファブテック(株)/日本ロード・メンテナンス(株)/徳勝防災(株)/八木松緑地愛護協力会/名取川コンクリートコンクリート(株)/(株)パスコ/東日本コンクリート(株)/広瀬川/ニカウスキー(特活)広瀬川100年とくば/広瀬川/を心楽しむバーチネースクラブ東北(株)深松組(株)富士測地開発/(株)フジ/フジ道路(株)富士通ネットワークソリューションズ(株)/(株)復建技術コンサルタント/古河産機システム(株)/(株)鳥島アプシステム(株)日徳鉄工/三井建設建設コンサルタント(株)(特活)水・環境ネット東北(株)みずほ電設(株)(株)宮城環境生産(公社)(公)みずほ・環境とくば/一社/ネットワーク/宮城県建設業青年会/美和電気工業(株)北の郡建設/同組合/八千代エンジニアリング(株)/(株)山下設計/大和工業(株)/横河リソーシヨンサービス(株)ライオン建設(株)ワクワン(株)渡辺匠工(一社)仙台北建設協会/赤坂建設(株)/(株)熱海工務店(株)阿部和合建設/阿部建設(株)/(株)阿部妙子建設/栗村建設興業(株)/(株)泉工務店(株)/栄工業(株)/遠藤工業(株)/奥山工業(株)/皆成建設(株)/(株)加賀/金福建設(株)/河北建設(株)/(株)鎌田建設/栗村建設興業(株)/(株)小松建設/サイト工業(株)/(株)佐元工務店(株)柴田建設工業/仙台アスコン(株)/仙台土木建築工業(株)/仙台北土木建築工業(株)仙台建設(株)/鷹野建設(株)/(株)丹陽/通信道路(株)/銅谷建設(株)/東北土木建設(株)/東北グレーダー(株)/(株)東北リアライズ(株)/東北ロフテック/銅谷建設(株)/中田建設工業(株)/(株)日昌工業/(株)日建建設(株)/(株)橋本本店/長谷川建設(株)/(株)樹田組/丸武建設(株)/(株)三浦組/皆成建設(株)/山根建設(株)/ヤマワウ(有)/(株)湯田建設/陽光建設(株)/ワーク工業(株)/若菜建設(株)/(株)波速舗装技術(株) *2020年2月時点23団体

[illegible]

A photograph showing three people in red canoes on a river. The person in the foreground is wearing a blue cap and a life vest. The person in the middle is wearing a blue cap and a life vest. The person in the background is wearing a blue cap and a life vest. The river is surrounded by lush green vegetation and a stone wall is visible in the background.



広瀬川 1万人プロジェクト

秋の清掃ゴミの数
※()は春の清掃

秋の清掃参加者数
※()は春の清掃

※ゴミの量は家庭用ゴミ袋大換算です

地点	秋の清掃ゴミの数 (袋)	秋の清掃参加者数 (人)	春の清掃ゴミの数 (袋)	春の清掃参加者数 (人)
作並	8	125	70	118
野川橋	8	13	-	-
折立	7	16	-	-
牛越橋	15	152	-	-
澁橋	7 (10)	331 (323)	-	-
米ヶ袋	14	88	-	-
大橋右岸	7	160	-	-
大橋左岸	4	171	-	-
仙台駅	-	-	-	-
宮沢橋	7 (11)	269 (343)	-	-
八本松	1	36	-	-
千代大橋	23 (52)	146 (250)	-	-
貞山運河新堀	7	9	-	-
荒浜海岸	20 (62)	79 (67)	-	-
かわまちてらす関上	21	57	-	-
関上海岸	103 (87)	399 (307)	-	-
名取川	39	24	-	-
名取川鉄道橋	9	69	-	-
太白大橋	39	24	-	-



HP <http://www.hirosegawa-sendai.org>

杜の都・仙台のシンボルである広瀬川。その自然環境を守り、より多くの市民が親しめる広瀬川とするため、100万都市仙台の1%にあたる1万人をキーワードとして、市民・企業・行政が連携して様々な取り組みを行っています



第8回
広瀬川学校
2020年2月23日

みつろうエコラップ ワークショップ

軽量で加工がしやすく大量生産が可能なプラスチックは、非常に便利で生活に欠くことができない材料になっていますが、材料の調達やゴミとして自然界に出てしまった場合に、大きな問題があります。前回の海洋ゴミセミナーでも、マイクロプラスチックそのものや付着した化学物質による生態系への影響が示唆されました。さらに、東南アジア諸国における廃プラスチックの輸入禁止などにより、脱プラスチックの動きが加速しています。

まず、仙台市におけるプラスチック家庭ごみがどのように処理されているかや、荒浜などの海岸でのマイクロプラスチック調査について公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）4R 部会の根岸さんから紹介してもらいました。

以前であれば、家庭から出るプラスチック容器包装類はリサイクルできるから環境負荷は低いのではという考えもあったかもしれませんが。根岸さんによると「仙台市の家庭から出るプラスチックゴミは年間約 500 万トン。再生プラスチックの原料となるマテリアルリサイクルが約 20%、熱エネルギーとして利用されるサーマルリサイクルが約 60%。焼却や埋め立てが約 20%です。事業系のゴミの量も内訳もほぼ一緒」との事です。確かに 8 割方リサイクルされているようですが、燃料として燃やされているのでは、そもそもリサイクルなのか微妙です。貴重な資源を使っていること、そして自然界に出してしまうと厄介なものと認識して、利用を減らしていくことが必要です。



また、荒浜で定期的に行っている定点調査で 3m×3m 範囲のゴミを採取し組成を比較した結果、レジンペレットが最も多かったそうです。レジンペレットはプラスチック製品の原料で、仙台新港周辺に化学工場が多いからではないかということです。レジンペレットに次いで多いのが、牡蠣の養殖に使われる豆管と呼ばれるもので、三陸のものが流されてきているのではとの事で、一部は南三陸の漁師に返却しているそうです。



そして、普段の生活でもラップの代用としてプラスチックゴミの削減に役立つ【みつろうエコラップ】を、エコラップの普及活動を行っているスズノキ堂の鈴木さんの指導で作りました。

みつろうエコラップは、みつろう（ミツバチの巣の材料）、ホホバオイル、天然樹脂をコットン生地に染み込ませて作られた、食品保存用のラップです。洗って繰り返し使うことができます。また、自宅で簡単にお直しして長い間使うことができます。使えないくらいボロボロになってしまったら、土に埋めることで自然に還り循環します。

みつろうエコラップの作り方

①生地を選ぶ（今回は15cm×15cmでつくりました）

②生地にまんべんなく
みつろうを並べる



③②をクッキングシートで
はさみアイロンをかける
（アイロン温度170℃）

④みつろうが溶けて
生地に広がったら
はがして乾かして完成



電子レンジでは使えない、冷凍に不向き、脂っぽいものが苦手など、使用上の注意がいくつもありますが、メンテナンスをしながら繰り返し使えるので愛着がわきます。すでにエコラップを持っている参加者の方もいたので、おすすめの使い方を聞いてみたところ、海苔巻き、パンのこね台、弁当の仕切り、味噌のふたなど、多岐にわたり活躍の場があるようです。

鍋や包丁、食材にこだわるように、手製のエコラップはいかがでしょうか。



第9回
広瀬川学校
2019年9月10日

プラスチックの 海洋汚染削減セミナー



昨年に引き続き、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）との共催で、マイクロプラスチックを含む海洋ゴミ削減を目指すセミナーを開催しました。

マイクロプラスチックゴミ研究の第一人者である東京農工大学農学部環境資源科学科高田秀重教授を講師に【プラスチック汚染の対策：化学汚染のない循環型社会を目指して】と題してご講演をいただきました。

マイクロプラスチックは海洋ゴミとなったプラスチックが、紫外線や波などの影響で劣化して 5mm 以下になったものであり、陸域のゴミが風や雨水で川に流れ込み、川によって海に運ばれたものが大半を占めることは、昨年のセミナーでも紹介がありました。それでは何がその他のゴミと大きく違うのか？それが講演のテーマになっている化学汚染です。

プラスチックは性能を維持するためいろいろな化学物質が製品に使われているそうです。その化学物質には環境ホルモンと呼ばれているものがあり、ホルモンの作用をかく

乱し、免疫力の低下、アレルギー、肥満なども引き起こすことが知られています。そのプラスチックが細くなったものを餌と間違えて魚類が食べ、人間や野鳥がその魚を食べることを考えると、体内に分解できないプラスチックが蓄積したり、環境ホルモンが濃縮されたりします。

2050 年までに海洋ゴミが海の魚類と同じ量になると言われているそうです。またマイクロプラスチックに有害物質が付着することもあり、環境ホルモンと同様に生態系に重大な影響を与えるのは間違いなさそうです。

セミナー後は実際に七ヶ浜町の菖蒲田浜に出て、高田先生とともに海岸調査を行いました。海岸調査自体が初めての人も多く、みなさん真剣に取り組んでいました。

調査の方法は、砂浜で3mm前後のレジンペレットをピンセットで採集して、アルミホイルの入れ物に入れるだけの簡単な方法です。採取したレジンペレットは後日先生の研究室で、付着した環境ホルモン等の測定が行われました。

参加者から、日常的にできるプラスチックの削減行動について先生へ質問があり、ペットボトルではなく水筒を使うことやスポンジも石油由来の物を使わないこと、マイバックを積極的に使用すること、化繊の洋服より自然素材を積極的に着ることなどの回答がありました。

展示ブースでは、海辺のたからもの、仙台鳴り砂研究会、あいコープみやぎ、荒浜復興推進協議会植物再生部など、宮城県内で海洋ゴミの削減に取り組む団体が取り組みを紹介し、情報交換などを行いました。マイクロプラスチックの知識や海洋ごみの問題点をこれまで以上に深めることができ、有意義なセミナーとなりました。

